

大森駅周辺 地区の特徴

大森駅周辺地区は、明治9年の大森駅開業以来、JR線の東西で個性のある発展をしてきました。その魅力ある個性は、地形的特徴や固有の歴史・文化などを背景に形成されてきたもので、これからのまちづくりにも継承し活かすことが望まれます。

西側の特徴

大森駅西側は、線路に沿って池上通りが南北に通る、その西側は起伏のある台地に住宅地が形成されています。この一帯は、大正以降、多くの文人や芸術家が居を構え、創作活動を行ったことから馬込文士村と呼ばれ、居住地・別荘地として人気を集めてきました。現在も、文士ゆかりの資料館や旧居跡等があるほか、日本考古学発祥の地である大森貝塚などの史跡も残されています。



東側の特徴

大森駅東側は、臨海部まで続く広がりのある平坦な土地となっています。大森駅開業を契機に、田園地帯から住宅地に、そして戦災復興土地区画整理事業によって、商業・業務、公益施設等の機能の集積などにより発展してきました。沿岸部では、かつては海苔の養殖が盛んで、今でも海苔文化が受け継がれており、近年では臨海部に、憩いの空間として「大森ふるさとの浜辺公園」や「大森 海苔のふるさと館」などが整備され、その他にも、多くの集客施設があるエリアとなっています。今後は、羽田空港の再拡張・国際化などに伴う発展が期待されます。



大森駅周辺地区の問題点

- 駅周辺と臨海部が連携したにぎわいの不足**
 - 大森駅周辺地区の事業所数及び年間販売額が減少しています。
 - 空港臨海部の豊富な集客施設へのアクセス手段や回遊手段が不足しています。
- 歴史、文化を活かしたまちづくりの不足**
 - 駅及び駅周辺において、歴史や文化の雰囲気を十分に感じ取ることができません。
- 減少・不足している緑**
 - 山王地区の緑が建替え等により、大きく減少しています。
 - 東口は市街地全体として緑が少ない状況です。

- 空間的余裕のない駅西口**
 - 駅西口は駅前広場がなく、ピーク時には歩道が混雑しています。
 - 駅前の池上通り(補助28号線)は、道路の幅が未着手です。
- 東口駅前の通行動線の交錯**
 - タクシーや一般車両に対応した駐停車スペースが不足しています。
 - バス乗り場への歩行者動線と自動車動線が交錯しています。
- 不十分な自転車利用環境**
 - 自転車等駐車が、自転車利用の需要数に対し、駅東西で不足しています。
- 不十分な駅及び駅周辺の施設利用・歩行環境**
 - JR線で分断された東西を通行する連絡路が不足しています。
 - 駅及び駅周辺のユニバーサルデザインに対応した施設利用・歩行環境が不十分です。

まちづくりの課題

- 臨海部と連携したにぎわいの創出
- 利便性・安全性・快適性の向上
- 交通結節点としての都市基盤の充実
- 歴史・文化・まちづくりの継承と活用
- 良好な居住地の形成・保全
- ユニバーサルデザインの推進